

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800477		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 久米		
所在地	岡山県久米郡久米南町上神目436		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 21 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①毎日、リハビリを兼ねて歌謡体操、ラジオ体操、外気浴、散歩
- ②季節に応じた外出支援
- ③季節のイベント、ボランティアの慰問
- ④提携医の定期的な往診、24時間体制
- ⑤サヨー薬局の居宅療養管理指導を受け正しく服薬でき病気の進行予防ができる。
- ⑥地域小学校行事の参加、小学生、中学生訪問交流
- ⑦ボランティアの受け入れを積極的に行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373800477-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373800477-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 28 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

80代後半から90代後半の利用者を中心に、半数以上の方が車椅子で生活している。寝たきりでなければ介護が必要な重度の状態まで包括的にサポートしており、家族の希望に応じて、看取り介護も行うなど幅広いニーズに柔軟に対応している。自分の気持ちをうまく言葉で伝えることが難しい方にも、想いを引き出し、叶えようという管理者の熱意が職員にも浸透しており、利用者のペースに合わせ、傍に寄り添うケアを実践していた。離れて暮らす家族に手書きの手紙を出し、その文面からは利用者の日々の様子が目の当たりに浮かぶほど、職員が丁寧に把握している印象が窺えた。リビングで過ごす利用者の方々が、訪れた評価員に笑顔で手を振り、迎えてくれた姿は、我が家に客を招いた時のような温かい雰囲気を感じられた。また、開所当初から地域の小学生との交流を大切にしている。管理者の子供が小学生だった時の担任教師からの提案がきっかけとなり、現在に至るまでその交流は続いている。ソーラン節やレクリエーションを通じた利用者さんとの触れ合いは、子供たちにとって認知症や障がいに対する生きた学びの場となっている。包括的かつ温かいケアを提供し、入居者の個々のニーズに応える姿勢が際立っていた。管理者の情熱と職員の尽力により、地域との結びつきも強化され、利用者が安心して過ごせる環境が整っていた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社名の桜梅桃里を基本に認め合い助け合い尊敬する家族のような温かい雰囲気の中で暮らせる生活をする。	理念と年間目標を事務所に掲示している。勤続年数が長い職員が多く、理念も浸透している。運営理念に掲げてある、「入居者様に自分らしく生きていただく為の支援」をお手伝いしている。年間目標である、入居者に寄り添い、介護記録の付け方にも気を配れるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議など地域の方とグループホームが孤立しないように意見を頂いている。また、地域の園児や児童生徒が、年に数回訪問している。学校行事にも参加させて頂き交流している。	近隣住民の方から野菜の差し入れがあり、溝掃除や草刈りの地域清掃にも積極的に参加している。年1回の町内会議にも参加していて、自治会長とは顔見知りの関係が継続されている。11月に近隣の小学校のソーラン節が施設内で披露され、利用者は大いに喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年、認知症理解の講演は実施できていない。コロナが終息したら地域の方をお招きして行事を行いたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、自治会、愛育委員の方から意見を聴き取り反映するように努めている。薬剤師の先生にも参加して頂きサービス向上に活かしている。	町の保健福祉課、愛育委員、家族が参加している。コロナが5類になった際には、対面で実施でき、入居者状況や行事報告を行った。直近では、避難訓練や運動会、ワクチン接種の報告を行った。今後、感染症予防蔓延防止の実地研修を行う予定である。	対面が可能となったので、より多くの意見を反映してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは頻りに連絡を取り、また行政が行うケア会議・講習等にも積極的に参加をしている。	管理者は役場の窓口まで行くことが多く、何でも話せる関係となっている。資料を提出する際には、管理者以外の職員も窓口に行く時もあり、顔馴染みとなっている。久米南町が作成している広報誌が施設に届き、利用者の楽しみの一つとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉は施錠しないで、玄関等は常に解放し、入居者様が自由に出入りできるようにしている。	身体拘束はしておらず、日中は玄関の施錠はしていない。両ユニットの行き来も可能としている。外部講師を招いて、身体拘束や虐待についての学びを深めた。内部研修では、資料を参考して再確認の場となった。スピーチロックにならないように、言葉の使い方に気配りをしている。	スピーチロックについて知識を深めてみてはいかがでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議や外部講師をお招きして勉強会をしたり、日常のケアについて検討している。虐待防止委員会を2ヶ月に1回会議を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キャリア形成訪問指導事業を活用して、成年後見制度の基本的事項についての研修に参加し理解を深めて活用できるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、身元引受人様の要望等を十分に考慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン作成前やお渡しするときにご家族の意見等をお伺い普段の生活や行事に反映している。また、運営推進会議の意見も反映させている。	2ヶ月に1回、担当職員より手書きの手紙を郵送して、利用者の様子を伝えている。家族や利用者から、歩行回数を増やして欲しいとの要望が上がり、生活リハビリとして下肢筋力向上をプランに盛り込んだ。利用者が好きな物を食べたいとの要望が上がり、旬の食材を使って料理を提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス向上会議や人事査定面接時に職員の意見を聴き取りしている。また、管理者会議を2ヶ月に1度開催し意見を反映させている。	カンファレンス時や、必要に応じて管理者が直接面談を実施している。職員は、管理者には何でも言える関係で、普段から意見が飛び交っている。職員からの要望で、倉庫が欲しいとの意見が上がり、駐車場に倉庫が置かれた。法人内の管理者同士がリモートで会議をしていて、最新の情報が得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他の営利介護事業所よりは、給与・待遇は良い体制である。また、職員が金銭的に困窮時も法人としての援助体制がある。勤務しやすい体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を1年間を通して受講できる体制が作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の呼びかけで、近隣のGHや在宅会議サービス事業所が不定期ではあるが勉強会や意見交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、本人と必ず面談を行うのが基本になっている。計画作成者が自宅や入院先へ複数回訪問し、ご本人・家族の訴えを傾聴し人間関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家族の状況を把握できるよう何度か面談を行う。ホームで出来ること、出来ないことを説明しできるだけ要望に添えるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の相談の中からグループホーム入居が適切なのか見極め必要性を明確にし、本人家族にとってグループホーム以外の施設が適切と判断したなら他施設への方向性をご家族に伝え協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な分野を利用して頂き、畑作業や遊び・言葉・昔ながらの知恵を教えていただきながらお互いに学び、支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様担当スタッフを決め、家族と連絡を取り合い、面会や外出をお願いして入居者様の心のケアの支援を行っている。2か月に1回和楽だよりとして入居者様の普段の様子を書いて郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者に対して、気軽に面会できる雰囲気作りを心がけ、昔ながらの知人や友人が面会に来られ楽しく過ごせるように支援している。	家族同伴で、実家に帰ることは可能。近隣の土手に満開の桜が咲き、春の散歩コースになっている。近隣の住宅に花が咲き、利用者の癒しとなっている。気候の良い日は、玄関先のベンチに腰掛け、ティータイムを楽しんでいる。また、歌を歌ったり、道路を走る車を眺めたりして、生活を馴染み化させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないようレクリエーションを行う際に、トランプ・かるたなどは職員が間に入り他者との交流が持てる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、今後も何かあれば可能な限り相談や支援をさせて頂くことを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の言動を観察し本人の意向希望の把握に努めている。サービス計画書の作成には職員のプランを含めて検討できるよう各ユニットで、サービス向上会議を行っている。	年間目標でもある、入居者の表情や行動の些細な変化を注意するようにしている。利用者は職員に、何でも話せる関係ができている。個人の作品ファイルには、これまでの利用者が作った数多くの作品が並び、生きた証を刻んでいた。利用者に合わせて、入浴の時間の言葉掛けもしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族から今までの生活の様子を伺って、各職員が資料を読み把握し対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者様の生活のリズムを大切に食事時間や食事場所、過ごし方等本人にお聞きし支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞いて介護職員と話し合いを行い、出来るだけ要望に添った計画で支援している。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎に更新している。支援経過記録は、短期目標を掲げているので、職員間で情報共有ができ、目標に沿った支援に繋がっている。また、日中や夜間の様子を細かく記載している。ケアマネジャーは、施設で毎日楽しく過ごして頂きたいと考えていて、利用者に寄り添ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自が気づいたことや工夫を個別に記録して職員全員が実践に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望や家族の状況に合わせて、可能な限りご希望のサービスが提供できるよう柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期ではあるが、色々な分野のボランティアの方に来て頂き楽しんでいただいている。毎年中学生の職場体験を受け入れている。また小学5年生の交流と認知症／介護職員の仕事についての勉強会を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(嘱託医)に毎週水曜日に往診に来ていただいている。転院を希望されない方は今まで通り、希望の病院へ通院している。	かかりつけ医は、入居時に選んで頂いているが、全員が協力医に転医されている。往診は週1回あり、緊急時でも、ドクターは駆け付けてくれるので、職員や利用者に安心感をもたらしている。管理者が近隣の訪問できる歯科を探した結果、希望に応じて来て頂けるようになった。他科受診は、家族で対応して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、入居者様の状態を職員から情報収集して健康管理に努めている。必要な場合には、嘱託医連絡し指示を受け対応している。職員にも知識や対応について看護師が指導をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の看護師やソーシャルワーカーへ情報提供を行い早期退院ができるように協力している。週1程度お見舞いに行き、ご家族とも情報交換を行い病状の把握とご希望であれば洗濯代行も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当施設で対応できる最大の支援内容をご家族に説明しご理解いただいている。状態が悪化された場合には、嘱託医からご家族に状態の説明をしていただいている。ご家族と職員と何度も話し合いの場を儲けご家族の希望に沿って対応している。延命措置に関する意思確認書も何度も確認し変更があった場合は直ちに変更し対応している。	看取りは実施しているが、ここ3年はなかった。入居時に、看取り介護サービス対応指針にて説明し、同意を得ている。重度化した際には、ドクターを交えて再度確認する場を設けている。勤続年数が長い職員が多く、看取りの経験も豊富で心強い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し緊急時の対応に備えている。使用手順を職員同士で再確認している。救命講習を定期的実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、日中と夜間避難訓練を行い消防署・消防団員の方に参加頂き、入居者様が安全に災害時に避難できるように支援を行っている。運営推進会議等で災害(地震・水害)の対策についての話し合いの場を儲け研修会の情報や避難場所の確認を行っている。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施していて、利用者も参加することができた。事務所に連絡網とハザードマップを掲示している。地震・風水害のマニュアルも整備している。地域の高齢者の方の避難場所としても解放している。施設での備蓄はなく、町の備蓄品の保管場所として倉庫を提供している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを基本にプライバシーの確保に努めている。サービス向上会議で、一人ひとりの対応を検討し職員の意識の向上を図っている。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。別の呼び方で呼ぶ場合は、家族の了承を得ている。居室に入る際には、ノックをしてから言葉掛けをし、プライバシーに配慮しながら対応している。入居時に個人情報に関する同意書にもサインを頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者様に応じての声かけを行い、できるだけ自己決定ができる声かけや会話の中からご本人の思いや希望を聴き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、無理のないようなるべく自宅と同じように、その方の生活リズムで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の有資格者がおり定期的にご本人やご家族の希望に合わせてカットや毛染めを行っている。外出のできる方は必要に応じて必要な物品購入の為の外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、配食サービスを利用しているので食事作りを一緒にする機会は少ないが不定期で配食を止めて入居者様の食べたい物をお聞きして一緒に調理をしている。食事の配膳や食器洗い・拭きは入居者様にもして頂いている。	基本は3食配食サービスを利用している。敬老会や運動会の際には、行事食としてお弁当を注文し、気分を味わって頂いている。おやつ作りでは、利用者の希望を聞いた上で、たこ焼き、お好み焼き、ゼリー、プリンを提供した。茶碗や湯呑、お箸は馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスで高齢者の摂取カロリーで管理されている。水分摂取表を用いて水分摂取量は1300ml以上摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、眠前には義歯を外し義歯洗浄剤に一晩浸けるよう支援している。できる限りご自分できることはご本人に行っていただくように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表に基づき個々に合った排泄介助を行っている。定期的に排泄誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援を行っている。	扉が広く車イスでも、出入りがしやすい造りとなっている。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。排泄チェック表を活用し、タイミング良く言葉掛けをしたら、失敗が減った。排泄失敗時には、「綺麗な物に変えるからね」と安心するような言葉掛けをしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表及び水分摂取表に基づき水分を1日1300ml以上摂れるように管理している。個々に応じた軽い運動ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助表に基づき最低週3～4回は入浴できるように個々に合わせた援助をしている。ご本人の体調や気分により入浴できなかった場合は清拭で対応している。	週3～4回で、毎日希望されている方もいる。入浴を拒否される場合には、時間や職員を変えて言葉掛けをしている。浴槽に浸からない方へは、シャワー浴や清拭で対応している。浴槽は3方向から介助ができ、ヒートショック対応として、浴室と脱衣所にエアコンを設置している。季節湯として、ゆず湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻は厳しく規制せず個々に合わせている。不眠であった方に対しては、居室で午睡等で休息をとっていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬の説明書を薬局よりいただき、職員がいつでも目が通せるようにしている。更に詳しい説明書が必要と思われる場合はインターネットで情報をダウンロードし連絡帳に記載している。服薬の際には、服薬手順に添って服薬管理を厳重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣向に合わせてご本人の意思でレクリエーションが行えるように支援している。ご本人の了解を得て、できあがった作品をホールや居室に展示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	欲しい物や必要な物がある場合には、希望に添えるように外出支援をしている。職員の勤務体制でやむを得ず外出介助できない際は、ご本人にその旨を説明し、配達や日時を改めていただくか、ご家族にも協力して頂いている。	近隣の散歩は随時可能としている。春には近隣の土手に咲く満開の桜を見て、夏には、花火やお祭りのDVDを堪能し、秋には施設内での運動会で汗を流した。気候の良い日は、玄関先のベンチに腰掛け、ティータイムを楽しんでいる。また、歌を歌ったり、道路を走る車を眺めたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し希望される入居者様は所持して頂いている。買い物と一緒にいき、支払いも本人ができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用して頂いている。かけられない方は、職員が支援し電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには自宅と同じように生活感のある雰囲気になっている。季節に応じた花や入居者様の作品を飾っている。利用者が使用するものは、手の届く所に置いて自由に使っていただいている。	開放感があるリビングでは、吹き抜けの天窓から明るい光が差し込み、利用者は落ち着いた雰囲気の中で過ごしていた。温湿度計を設置していて、常に快適な温湿度が保たれていた。カラオケが大人気で、利用者は「宗右衛門町ブルース」や「安来節」を熱唱している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間として自由に和室で横になれるようにしている。またご家族との団欒の場として使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の慣れ親しんだ家具や装飾を置いている。家族にも馴染みの物を置く必要性を日頃から説明している。居室や共用スペースにも入居者様と職員で飾りつけし自分達の部屋として工夫している。	居室の扉の小窓には、季節に応じたステンドグラス風の作品が飾られている。ベッドとエアコンが備え付けで、窓からは紅葉の山々の風景を見ることができた。馴染みのダンスを持ち込んだり、TVを観たり本を読んだりして過ごしている。歩行が不安定な方の居室は、センサーを置いて安全確保に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得て自分の居室と分かるよう名前をつけたり、必要に応じて自分の居室とわかる飾りつけをしている。トイレには大きく便所と表記している。手すりを設置し、安全に行動できるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800477		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 久米		
所在地	岡山県久米郡久米南町上神目436		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 21 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①毎日、リハビリを兼ねて歌謡体操、ラジオ体操、外気浴、散歩
- ②季節に応じた外出支援
- ③季節のイベント、ボランティアの慰問
- ④提携医の定期的な往診、24時間体制
- ⑤サヨー薬局の居宅療養管理指導を受け正しく服薬でき病気の進行予防ができる。
- ⑥地域小学校行事の参加、小学生、中学生訪問交流
- ⑦ボランティアの受け入れを積極的に行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373800477-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3373800477-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 28 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

80代後半から90代後半の利用者を中心に、半数以上の方が車椅子で生活している。寝たきりでなければ介護が必要な重度の状態まで包括的にサポートしており、家族の希望に応じて、看取り介護も行うなど幅広いニーズに柔軟に対応している。自分の気持ちをうまく言葉で伝えることが難しい方にも、想いを引き出し、叶えようという管理者の熱意が職員にも浸透しており、利用者のペースに合わせ、傍に寄り添うケアを実践していた。離れて暮らす家族に手書きの手紙を出し、その文面からは利用者の日々の様子が目の当たりに浮かぶほど、職員が丁寧に把握している印象が窺えた。リビングで過ごす利用者の方々が、訪れた評価員に笑顔で手を振り、迎えてくれた姿は、我が家に客を招いた時のような温かい雰囲気を感じられた。また、開所当初から地域の小学生との交流を大切にしている。管理者の子供が小学生だった時の担任教師からの提案がきっかけとなり、現在に至るまでその交流は続いている。ソーラン節やレクリエーションを通じた利用者さんとの触れ合いは、子供たちにとって認知症や障がいに対する生きた学びの場となっている。包括的かつ温かいケアを提供し、入居者の個々のニーズに応える姿勢が際立っていた。管理者の情熱と職員の尽力により、地域との結びつきも強化され、利用者が安心して過ごせる環境が整っていた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社名の桜梅桃里を基本に認め合い助け合い尊敬する家族のような温かい雰囲気の中で暮らせる生活をする。	理念と年間目標を事務所に掲示している。勤続年数が長い職員が多く、理念も浸透している。運営理念に掲げている、「入居者に自分らしく生きていただく為の支援」をお手伝いしている。年間目標である、入居者に寄り添い、介護記録の付け方にも気を配れるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議など地域の方とグループホームが孤立しないように意見を頂いている。また、地域の園児や児童生徒が、年に数回訪問している。学校行事にも参加させて頂き交流している。	近隣住民の方から野菜の差し入れがあり、溝掃除や草刈りの地域清掃にも積極的に参加している。年1回の町内会議にも参加していて、自治会長とは顔見知りの関係が継続されている。11月に近隣の小学校のソーラン節が施設内で披露され、利用者は大いに喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年、認知症理解の講演は実施できていない。コロナが終息したら地域の方をお招きして行事を行いたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、自治会、愛育委員の方から意見を聴き取り反映するように努めている。薬剤師の先生にも参加して頂きサービス向上に活かしている。	町の保健福祉課、愛育委員、家族が参加している。コロナが5類になった際には、対面で実施でき、入居者状況や行事報告を行った。直近では、避難訓練や運動会、ワクチン接種の報告を行った。今後、感染症予防蔓延防止の実地研修を行う予定である。	対面が可能となったので、より多くの意見を反映してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは頻りに連絡を取り、また行政が行うケア会議・講習等にも積極的に参加をしている。	管理者は役場の窓口まで行くことが多く、何でも話せる関係となっている。資料を提出する際には、管理者以外の職員も窓口に行く時もあり、顔馴染みとなっている。久米南町が作成している広報誌が施設に届き、利用者の楽しみの一つとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉は施錠しないで、玄関等は常に解放し、入居者様が自由に出入りできるようにしている。	身体拘束はしておらず、日中は玄関の施錠はしていない。両ユニットの行き来も可能としている。外部講師を招いて、身体拘束や虐待についての学びを深めた。内部研修では、資料を参考して再確認の場となった。スピーチロックにならないように、言葉の使い方に気配りをしている。	スピーチロックについて知識を深めてみてはいかがでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議や外部講師をお招きして勉強会をしたり、日常のケアについて検討している。虐待防止委員会を2ヶ月に1回会議を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キャリア形成訪問指導事業を活用して、成年後見制度の基本的事項についての研修に参加し理解を深めて活用できるように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、身元引受人様の要望等を十分に考慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン作成前やお渡しするときにご家族の意見等をお伺い普段の生活や行事に反映している。また、運営推進会議の意見も反映させている。	2ヶ月に1回、担当職員より手書きの手紙を郵送して、利用者の様子を伝えている。家族や利用者から、歩行回数を増やして欲しいとの要望が上がり、生活リハビリとして下肢筋力向上をプランに盛り込んだ。利用者が好きな物を食べたいとの要望が上がり、旬の食材を使って料理を提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス向上会議や人事査定面接時に職員の意見を聴き取りしている。また、管理者会議を2ヶ月に1度開催し意見を反映させている。	カンファレンス時や、必要に応じて管理者が直接面談を実施している。職員は、管理者には何でも言える関係で、普段から意見が飛び交っている。職員からの要望で、倉庫が欲しいとの意見が上がり、駐車場に倉庫が置かれた。法人内の管理者同士がリモートで会議をしていて、最新の情報が得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他の営利介護事業所よりは、給与・待遇は良い体制である。また、職員が金銭的に困窮時も法人としての援助体制がある。勤務しやすい体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を1年間を通して受講できる体制が作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の呼びかけで、近隣のGHや在宅会議サービス事業所が不定期ではあるが勉強会や意見交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、本人と必ず面談を行うのが基本になっている。計画作成者が自宅や入院先へ複数回訪問し、ご本人・家族の訴えを傾聴し人間関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家族の状況を把握できるよう何度か面談を行う。ホームで出来ること、出来ないことを説明しできるだけ要望に添えるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の相談の中からグループホーム入居が適切なのか見極め必要性を明確にし、本人家族にとってグループホーム以外の施設が適切と判断したなら他施設への方向性をご家族に伝え協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な分野を利用して頂き、畑作業や遊び・言葉・昔ながらの知恵を教えていただきながらお互いに学び、支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様担当スタッフを決め、家族と連絡を取り合い、面会や外出をお願いして入居者様の心のケアの支援を行っている。2か月に1回和楽だよりとして入居者様の普段の様子を書いて郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者に対して、気軽に面会できる雰囲気作りを心がけ、昔ながらの知人や友人が面会に来られ楽しく過ごせるように支援している。	家族同伴で、実家に帰ることは可能。近隣の土手に満開の桜が咲き、春の散歩コースになっている。近隣の住宅に花が咲き、利用者の癒しとなっている。気候の良い日は、玄関先のベンチに腰掛け、ティータイムを楽しんでいる。また、歌を歌ったり、道路を走る車を眺めたりして、生活を馴染み化させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないようレクリエーションを行う際に、トランプ・かるたなどは職員が間に入り他者との交流が持てる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、今後も何かあれば可能な限り相談や支援をさせて頂くことを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の言動を観察し本人の意向希望の把握に努めている。サービス計画書の作成には職員のプランを含めて検討できるよう各ユニットで、サービス向上会議を行っている。	年間目標でもある、入居者の表情や行動の些細な変化を注意するようにしている。利用者は職員に、何でも話せる関係ができている。個人の作品ファイルには、これまでの利用者が作った数多くの作品が並び、生きた証を刻んでいた。利用者に合わせて、入浴の時間の言葉掛けもしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族から今までの生活の様子を伺って、各職員が資料を読み把握し対応するように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者様の生活のリズムを大切にし食事時間や食事場所、過ごし方等本人にお聞きし支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞いて介護職員と話し合いを行い、出来るだけ要望に添った計画で支援している。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎に更新している。支援経過記録は、短期目標を掲げているので、職員間で情報共有ができ、目標に沿った支援に繋がっている。また、日中や夜間の様子を細かく記載している。ケアマネジャーは、施設で毎日楽しく過ごして頂きたいと考えていて、利用者に寄り添ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自が気づいたことや工夫を個別に記録して職員全員が実践に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望や家族の状況に合わせて、可能な限りご希望のサービスが提供できるよう柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期ではあるが、色々な分野のボランティアの方に来て頂き楽しんでいただいている。毎年中学生の職場体験を受け入れている。また小学5年生の交流と認知症／介護職員の仕事についての勉強会を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(嘱託医)に毎週水曜日に往診に来ていただいている。転院を希望されない方は今まで通り、希望の病院へ通院している。	かかりつけ医は、入居時に選んで頂いているが、全員が協力医に転医されている。往診は週1回あり、緊急時でも、ドクターは駆け付けてくれるので、職員や利用者に安心感をもたらしている。管理者が近隣の訪問できる歯科を探した結果、希望に応じて来て頂けるようになった。他科受診は、家族で対応して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、入居者様の状態を職員から情報収集して健康管理に努めている。必要な場合には、嘱託医連絡し指示を受け対応している。職員にも知識や対応について看護師が指導をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の看護師やソーシャルワーカーへ情報提供を行い早期退院ができるように協力している。週1程度お見舞いに行き、ご家族とも情報交換を行い病状の把握とご希望であれば洗濯代行も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当施設で対応できる最大の支援内容をご家族に説明しご理解いただいている。状態が悪化された場合には、嘱託医からご家族に状態の説明をしていただいている。ご家族と職員と何度も話し合いの場を儲けご家族の希望に沿って対応している。延命措置に関する意思確認書も何度も確認し変更があった場合は直ちに変更し対応している。	看取りは実施しているが、ここ3年はなかった。入居時に、看取り介護サービス対応指針にて説明し、同意を得ている。重度化した際には、ドクターを交えて再度確認する場を設けている。勤続年数が長い職員が多く、看取りの経験も豊富で心強い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し緊急時の対応に備えている。使用手順を職員同士で再確認している。救命講習を定期的実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、日中と夜間避難訓練を行い消防署・消防団員の方に参加頂き、入居者様が安全に災害時に避難できるように支援を行っている。運営推進会議等で災害(地震・水害)の対策についての話し合いの場を儲け研修会の情報や避難場所の確認を行っている。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施していて、利用者も参加することができた。事務所に連絡網とハザードマップを掲示している。地震・風水害のマニュアルも整備している。地域の高齢者の方の避難場所としても解放している。施設での備蓄はなく、町の備蓄品の保管場所として倉庫を提供している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを基本にプライバシーの確保に努めている。サービス向上会議で、一人ひとりの対応を検討し職員の意識の向上を図っている。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。別の呼び方で呼ぶ場合は、家族の了承を得ている。居室に入る際には、ノックをしてから言葉掛けをし、プライバシーに配慮しながら対応している。入居時に個人情報に関する同意書にもサインを頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者様に応じての声かけを行い、できるだけ自己決定ができる声かけや会話の中からご本人の思いや希望を聴き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、無理のないようなるべく自宅と同じように、その方の生活リズムで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の有資格者がおり定期的にご本人やご家族の希望に合わせてカットや毛染めを行っている。外出のできる方は必要に応じて必要な物品購入の為の外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、配食サービスを利用しているので食事作りを一緒にする機会は少ないが不定期で配食を止めて入居者様の食べたい物をお聞きして一緒に調理をしている。食事の配膳や食器洗い・拭きは入居者様にもして頂いている。	基本は3食配食サービスを利用している。敬老会や運動会の際には、行事食としてお弁当を注文し、気分を味わって頂いている。おやつ作りでは、利用者の希望を聞いた上で、たこ焼き、お好み焼き、ゼリー、プリンを提供した。茶碗や湯呑、お箸は馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスで高齢者の摂取カロリーで管理されている。水分摂取表を用いて水分摂取量は1300ml以上摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、眠前には義歯を外し義歯洗浄剤に一晩浸けるよう支援している。できる限り自分できることはご本人に行っていただくように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表に基づき個々に合った排泄介助を行っている。定期的に排泄誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援を行っている。	扉が広く車イスでも、出入りがしやすい造りとなっている。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。排泄チェック表を活用し、タイミング良く言葉掛けをしたら、失敗が減った。排泄失敗時には、「綺麗な物に変えるからね」と安心するような言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表及び水分摂取表に基づき水分を1日1300ml以上摂れるように管理している。個々に応じた軽い運動ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助表に基づき最低週3～4回は入浴できるように個々に合わせた援助をしている。ご本人の体調や気分により入浴できなかった場合は清拭で対応している。	週3～4回で、毎日希望されている方もいる。入浴を拒否される場合には、時間や職員を変えて言葉掛けをしている。浴槽に浸からない方へは、シャワー浴や清拭で対応している。浴槽は3方向から介助ができ、ヒートショック対応として、浴室と脱衣所にエアコンを設置している。季節湯として、ゆず湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻は厳しく規制せず個々に合わせている。不眠であった方に対しては、居室で午睡等で休息をとっていただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬の説明書を薬局よりいただき、職員がいつでも目が通せるようにしている。更に詳しい説明書が必要と思われる場合はインターネットで情報をダウンロードし連絡帳に記載している。服薬の際には、服薬手順に添って服薬管理を厳重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣向に合わせてご本人の意思でレクリエーションが行えるように支援している。ご本人の了解を得て、できあがった作品をホールや居室に展示している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	欲しい物や必要な物がある場合には、希望に添えるように外出支援をしている。職員の勤務体制でやむを得ず外出介助できない際は、ご本人にその旨を説明し、配達や日時を改めていただくか、ご家族にも協力して頂いている。	近隣の散歩は随時可能としている。春には近隣の土手に咲く満開の桜を見て、夏には、花火やお祭りのDVDを堪能し、秋には施設内での運動会で汗を流した。気候の良い日は、玄関先のベンチに腰掛け、ティータイムを楽しんでいる。また、歌を歌ったり、道路を走る車を眺めたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し希望される入居者様は所持して頂いている。買い物と一緒にいき、支払いも本人ができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用して頂いている。かけられない方は、職員が支援し電話を使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには自宅と同じように生活感のある雰囲気になっている。季節に応じた花や入居者様の作品を飾っている。利用者が使用するものは、手の届く所に置いて自由に使っていただいている。	開放感があるリビングでは、吹き抜けの天窓から明るい光が差し込み、利用者は落ち着いた雰囲気の中で過ごしていた。温湿度計を設置していて、常に快適な温湿度が保たれていた。カラオケが大人気で、利用者は「宗右衛門町ブルース」や「安来節」を熱唱している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間として自由に和室で横になれるようにしている。またご家族との団欒の場として使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の慣れ親しんだ家具や装飾を置いている。家族にも馴染みの物を置く必要性を日頃から説明している。居室や共用スペースにも入居者様と職員で飾りつけし自分達の部屋として工夫している。	居室の扉の小窓には、季節に応じたステンドグラス風の作品が飾られている。ベッドとエアコンが備え付けで、窓からは紅葉の山々の風景を見ることができた。馴染みのダンスを持ち込んだり、TVを観たり本を読んだりして過ごしている。歩行が不安定な方の居室は、センサーを置いて安全確保に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得て自分の居室と分かるよう名前をつけたり、必要に応じて自分の居室とわかる飾りつけをしている。トイレには大きく便所と表記している。手すりを設置し、安全に行動できるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				